

# スクールバス運行基準見直しなどで論戦

## 12月定例会市議会で16回目の一般質問

12月15日、私は市議になって16回目の一般質問を行いました。今回のテーマは、防災対策、裁判員制度、通学援助費、スクールバス等の運行基準の見直しの3つです。以下は市長、教育長とのやりとりの概要です。

### 原子力災害対策の体制整備急げ

【橋爪】今年の6月に見直した市地域防災計画は原子力防災対策を入れるなど評価できるものだ。地域防災計画見直し後の各種防災訓練をどう総括しているか。また、原子力災害対策の体制整備はすすんでいるか。

【市長】総合防災訓練、図上訓練など、参加者へのアンケートや防災関係機関との検討会を開催し、検証、評価をした。

総合防災訓練では、より幅の広い年代層の参加、指定避難所への避難の際における自主的な安否確認など、市民自らの目線で自助・共助の手法などの充実や改善を図る取組みの必要があると考えている。

図上訓練では、見直し後の本部体制が、組織横断的な対応や防災関係機関との連携に効果的であると確認できると確認できた反面、災害対策本部各部



各班相互の情報共有の不  
足、本部から各区への情報の流れのどこ  
こおりなど課題があった。  
原子力災害対策では、放

射性物質又は放射線が異常な水準で発電所外へ放出された場合に、当市の地域に不安や混乱が生じる事態や柏崎市などの住民が当市内へ避難する事態などを想定し、防災関係機関との連携体制、市民等への広報体制、避難誘導体制、救急・救護体制の整備などを定めている。市民の被曝対策では、安定ヨウ素剤42万8000錠を備蓄しており、今後、県や医師会と連携した投与体制などを研究していく。柏崎市などの住民が当市に避難する場合の体制整備については、順次整えていく。

### 裁判員への市の独自支援検討

【橋爪】裁判員制度そのものは、国民の司法参加の出発点として、民主的で公正な司法を実現する第一歩となるものだが、同制度の実施と導入にあたっては、「様々な環境整備」が必要であること、そして何よりも国民の合意が必要だ。市として、この制度の周知、支援体制についてどうしていくか。

【市長】市としても、これまで、リーフレットの町内会回覧や「まちづくり町内会長会議」や公民館の講座などでその周知に努めてきた。介護サービスや一時保育の利用などについて、関係機関と連携し、検討してまいりたい。

### 現行の通学援助制度維持を基本に

【橋爪】今回の通学援助費及びスクールバス運行基準等の見直しは、合併そのものは是非にもかかわってくる重要問題だ。それだけに、今回

の問題は学校や地域の実情を正確に、あるいは誠実に把握したうえで、慎重な対応が求められている。この問題を考える立脚点だが、学校からどんな距離の所に住んでいようと子どもたちの学ぶ権利を保障していくことととらえてよいか。

【教育長】ご指摘の通り、どんな距離にあらうことができるようにと考えている。

【橋爪】これまでの経過を見ると意見交換などの対象外になったところがある。すべての学校の児童生徒を対象にすべきではないか。

【教育長】2回目の説明会になると全域で行う基準案ができた後、今年度中に全地域が終了するということだ。

【橋爪】アンケートの取り方に注文がある。いくらいくらの金がかかるが、「保護者負担」をどう考えるかという誘導尋問があった。素直にどう考えるか問うべきだ。今後、このようなことがないようにしてほしい。

【教育長】そうとらえておられるとすれば、参考にさせてもらう。アンケートの取り方で配慮していく。

【橋爪】通学援助費、スクールバスを出している学校のうち、統廃合の歴史の過程の中で、保護者との話し合いがあり、バス運行、負担なしなどが決められたのはどれくらいあるか。

【教育長】一覧表などデータとしては持っているが、数としてはまとめていない。

【橋爪】そこはしっかりと見ていただきたい。なぜそうなったか把握して進むことが大前提だ。（バスの質問はこの後も続きます。続報します）



オオイヌノフグリまで咲きました。暖冬です。下深沢で撮影。



# 冬の花火がバン、バン、バーン

## 子どもも大人も大喜び…☆キラキラ大作戦☆

ふるさと吉川を輝かせるにはどうしたらいいか。21日の夜、原之町の元役場庁舎跡地で行われたクリスマス☆キラキラ大作戦に参加してみました。「うーん、やるねえ」とすっかり感心してしまいました。ツリーを飾る。孟宗竹を利用して蝋燭の灯をともし。食べ物や飲み物を売る屋台を出す。そうした会場に子どもたちを集めて〇×ゲーム、ビンゴゲーム、クイズなど楽しさいっぱいの遊びを用意する。そして最後は冬の花火です。たくさんの明かりが輝き、参加者の目も輝いていました。

クリスマス・キラキラ大作戦は今年で4回目となります。実行委員会のみなさんが、子どもたち



に楽しんでもらい、少しでも吉川区を元気づけようと、計画・準備をしてくださいました。本当は少し雪があると高まったのかもしれませんが、この夜は生憎の小雨となりました。でも、参加者はクイズやゲームで湧きまし

た。花火の時は、それはもう最高に盛り上がりました。自然と拍手が起こり、「おー」「最高！」という歓声が上がりました。（私のホームページの日記「ホーセの見てある記」では音声も楽しめます）

私はこの作戦には初参加です。まず屋台でワンドリンクを買って、うどんを食べ、ゲームを観戦しました。実行委員会のメンバーはほとんど夏の越後よしかわやつたれ祭りの時と同じです。子どもたちと楽しくゲームをやるのがじつにうまい！。この夜はお酒を少しいただきながら、メンバーの皆さんとこのイベントのことやまちづくりについて語り合いました。

### 夢を語った感動のコンサート

23日は恒例の「ほっとホットコンサート」でした。吉川コミュニティプラザ3階の多目的ホールを満席にした観客がクリスマスを前に音楽を楽しみました。

コンサートは吉川中学校の吹奏楽部の金管6重奏から始まりました。同部はこの夏、吹奏楽コンクール新潟県大会で金賞をとったばかり。今回は吹奏楽部の1、2年生がドヴォルザークの「4つの合唱曲」などを聴かせてくれました。演奏したのは9人。司会者に「夢は？」ときかれて、「音楽コンクールで金賞をとりたい」「保育士になりたい」「公務員になりたいです」。みんな、すぐに頭に浮かぶ夢を持っているんですね。

柿崎区でこの春に結成したばかりというフオークトリオ、『あぜ道』のみなさんの

歌は初めて聴きました。滝澤ちず子さんの「涙そうそう」、平田優一さんの「吾亦紅（われもこう）」、中高年の気持ちにぴったりの歌です。すっかりとした歌声につられて一緒に歌い出しそうになる、そんな雰囲気がありました。司会者に将来の夢はときかれて「紅白歌合戦出場です」という答えに大きな拍手が送られました。

山岸協慈さんのギター、関澤章子さんのフルートはこれまで何度も聴いてきました。二人とも急速に人気上昇中。吉川区の誇る演奏者です。この夜は関澤さんの「EARTH」にすっかり魅せられました。目をつむると、宇宙に浮かぶ地球がイメージできました。

最後はチェコから前日帰ったばかりのピアニスト、市村幸恵さんです。ショパンの「別れの曲」、ベートーベンの「月光第3楽章」を力強く弾いてくれました。チェコに行つて10年になったそうですが、帰省する度に、地元で演奏してくれるのはうれしい。大拍手です。

コンサートの主催は吉川区の「夢をかなえる会」です。演奏者がそれぞれ自分の言葉で夢を語る場面は時々笑いもあって、とても良かったです。



写真は、吉川中学校吹奏楽部と市村幸恵さんの演奏風景。23日撮影。